

第4期古河市地域福祉計画策定に係る
ワークショップ
結果報告書

令和8年7月
古河市

1 目的

「第4期古河市地域福祉計画」の策定に向けて実施した市民アンケートなどから、「地域のつながり・地域への関心の低下」といった課題が明らかになりました。そこで、これらの課題を解決するためにどのような取り組み（活動）が有効か、地域福祉に関わる皆様からアイデアをいただくことを目的に、「地域活動の活性化」をテーマとしたワークショップを開催しました。

2 実施概要

と き 令和8年6月24日（水）午後2時から午後4時

ところ 古河市役所総和庁舎第2庁舎 会議室1

参加者 地域の支援に携わる関係機関や団体（古河市社会福祉協議会、民間事業者、市民団体）に所属する方々 及び 古河市職員の計19名

テーマ 地域活動の活性化

～地域の担い手不足をどう解消していくか、

地域住民同士で支え合う関係づくりをいかに構築していくか～

3 当日の進め方

まず事務局より地域福祉を取り巻く現状と課題をご説明し、次にテーマに関する意見交換を4、5人ずつの4グループに分かれ実施し、最後に各グループで出た意見の発表を行いました。

時間目安	内容
14：00	開会・ご案内
14：05	事務局説明 「地域福祉を取り巻く現状と課題」
14：20	ワークショップの進め方の説明
14：25 ～15：15	ワークショップ 各グループに分かれての意見交換
10 分間	テーマ意見出し（各人付箋に記入） 各個人ごとに自分が思うことを「ご自身やご家族で行うこと」は黄色の付箋に、「地域で行うこと」は桃色の付箋に、「市などの行政が行うこと」は青色の付箋に記入。
10～15 分間	意見発表（各人1枚ずつ模造紙に付箋を貼付） 一人ずつ順番に付箋紙に記入した内容を「なぜそう思ったか」一言コメントと共に発表し、テーブルの模造紙に貼付していきます。
25～30 分間	テーマ意見集約 意見発表で出た同じような意見が書かれた付箋紙を寄せ合い、そこにタイトルを付けます。
15：15	各グループ発表及び講評 各グループで出た意見を発表。また、発表グループ以外の方からコメントを頂くほか、事務局から全体を通しての講評を行いました。
16：00	閉会

4 当日の様子



5 結果概要

【総括】

総じて、地域活動の活性化には、住民一人一人の積極的な参加と意識改革、地域住民同士のつながりの強化、そして行政による継続的な支援と情報発信が不可欠であることが示されています。また、担い手不足という共通の課題に対し、多世代が協力し、地域の実情に合わせた多様な取組を進めていく必要性が浮き彫りになっています。

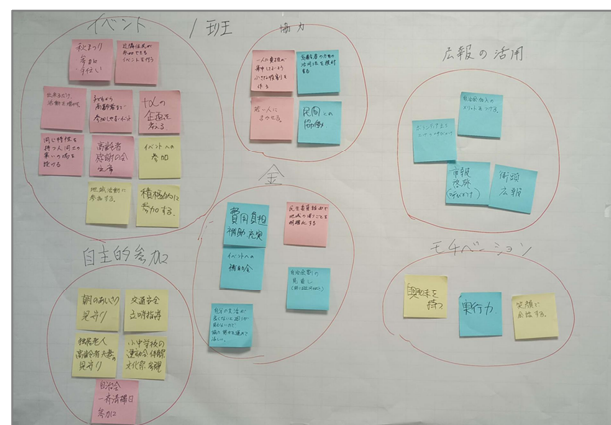
このような状況に対し、当ワークショップでは、イベント、コミュニティ、情報交換、環境美化、コミュニケーション、意識、インフラ整備、地域コミュニティ、行政の見える化、情報発信、環境づくり、担い手育成、近所付き合い、地域活動、自治会、担い手不足解消、拠点の整備、広報といった多岐にわたる項目について、実施主体（自分・家族、地域、行政）ごとの具体的な意見や提案が示されました。

【第1グループ】

「イベント」として、地域活動への参加促進や子どもから高齢者までが楽しめるイベント企画が提案されました。「協力」においては、高齢者の力の活用や民間との協働の必要性が示されました。「広報の活用」では、自治会・行政区加入のメリット周知や広報誌、街頭広報などが挙げられています。

「自主的参加」では、挨拶や見守り活動、地域行事への参加が重要視され、「金」の項目では、イベントへの補助金や自治会割の見直しが提案されています。

「モチベーション」としては、興味を持つこと、笑顔で会話すること、実行力が挙げられています。

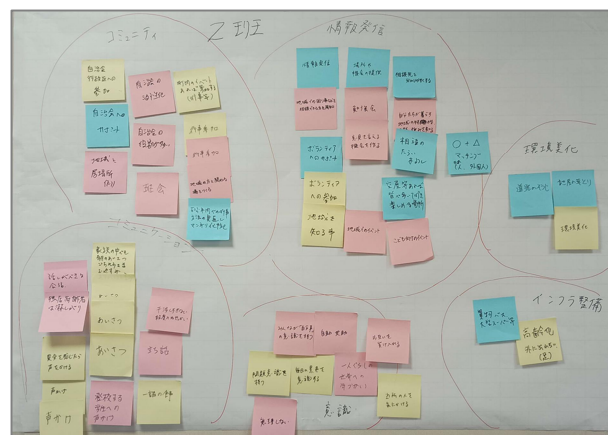


タイトル	実施主体	主な意見
イベント	自分・家族	イベントへの参加
		地域活動に参加する
		積極的に参加する
	地域	秋まつり（参加・手伝い）
		近隣住民が参加できるイベントを行う
		出来るだけ活動を増やす
		子どもから高齢者まで参加しやすいイベント
		参加者を増やすために+αの企画を考える
協力	地域	同じ特性を持つ人同士の集いの場を設ける
		高齢者感謝の会出席
協力	行政	一人に負担が集中しないよう小さな役割を作る
		若い人に任せる
広報の活用	行政	高齢者の力の活用法を検討する
		民間との協働
		自治会加入のメリットを広報紙などに掲載する
		ボランティア立ち上げの呼びかけ
自主的参加	自分・家族	市報啓発（呼びかけ）
		街頭広報
		朝の挨拶・見守り
		交通安全・立哨指導
	地域	独居老人・高齢者夫妻の見守り
金	行政	小中学校の運動会・体育祭・文化祭・参観
		自治会・一斉清掃日参加
		民生委員経由で地域の困りごとを明確化する
		費用負担・補助 充実
		イベントへの補助金
		自治会割の見直し（特に旧古河地区）
		自分の生活が良くないと周りが見えないので協力・努力を進めて欲しい。

モチベーション	自分・家族	興味を持つ
		笑顔で会話する
	行政	計画を立てた上で実際に推進していく実行力

【第2グループ】

「コミュニティ」において、自治会・行政区への参加、地域の方と関わる場づくり、自治会・行政区の活性化が提案されています。「情報交換」では、地域を知ること、困り事などを相談できる窓口、意見を言える機会の提供、地域特性の把握などが重要視されています。「環境美化」では、道路の掃除や空き家の草取りが挙げられています。「コミュニケーション」では、挨拶や声かけ、一緒に食事、会話の重要性が指摘され、「意識」の項目では、問題意識を持つこと、毎日の景色を意識すること、近所の人を気に掛けることなどが挙げられています。「インフラ整備」では、高齢者の外出支援（買物バス等）が提案されています。



タイトル	実施主体	主な意見
コミュニティ	自分・家族	自治会・行政区への参加
		町内のイベントあれば参加する（行事参加）
	地域	行事参加
		地域の方と関わる場を作る
		自治会の活性化
		自治会の役割が多い
		班会でのつながりを深める
		地域と居場所作り
行政	自治会へのサポート	
情報交換	自分・家族	ボランティアへの参加
		地域を知ること
	地域	地域での困り事などを相談できる方を周知
		地域課題を共有するため勉強会を開催する
		意見を言える機会を作る
		自分たちが暮らす地域の特性・課題・強みを知る
		地域でのイベント
		子ども向けのイベント
	行政	相談先についての情報発信
		場所や機会の提供
		相談先を分かりやすくする
		ボランティアへのサポート
		相談のたらい回し
		空家等あればみんなで歩いて行き楽しめる場所
外国人とよりコミュニケーションが可能となる仕組み		

環境美化	自分・家族	前向きな気持ちになるため環境美化に努める
	行政	道路の掃除
		空家の草取り
コミュニケーション	自分・家族	挨拶・家族の中でも朝の挨拶（ごちそうさま、おやすみ、ありがとうをいう）
		異変を感じたら声を掛ける
		一緒に食事
	地域	話ができる会話
		独居高齢者はさみしがり
		登校する学生への声掛け
		干渉すぎない程度のおせっかい 立ち話
意識	自分・家族	問題意識を持つ
		小さな変化に気づけるように毎日の景色を意識する
		近所の人を気に掛ける
	地域	無理しない
		みんなが「自分事」の意識を持つ
		自助共助
		お互いを受け入れる 一人暮らしの世帯への気遣い
インフラ整備	自分・家族	高齢化 外に出れない（足）
	行政	買物バス、大型スーパー等

【第3グループ】

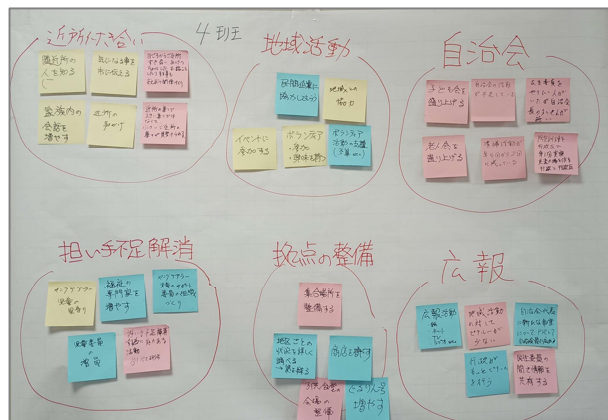
「地域コミュニティ」において、近所の方との挨拶や声かけ、町内会への協力、近所の付き合いを増やすことの重要性が強調されています。「イベント」では、地域住民が参加できるイベントの実施、地域活動を活性化するための資金などが提案されています。「行政の見える化」では、人口統計と地域特性の見える化、古河市の未来を考える人づくり、縦割り制度から重層的に関われる仕組み作り、ふるさと納税の活用などが挙げられています。「情報発信」では、アプリやSNSを活用した情報伝達、が提案されています。「環境づくり」では、地域の人が集まれる場所の提供、こどもから高齢者が交流できる場所づくりや空き家対策が挙げられています。「担い手育成」では、地域づくりをしている人のネットワークづくりやボランティアの担い手の育成が提案されています。



タイトル	実施主体	主な意見
地域コミュニティ	自分・家族	近所の方との挨拶や声掛けを積極的に行う
		町内会に協力し、班内の顔を覚えたりする
		近所の付き合いをたくさん作る
		近所付き合いのある住みよい町なら若者も集まってくる
	地域	困った人を助けるための話し合いの場
		近所同士の声掛け
	行政	地域の仕組みづくりの支援
イベント	自分・家族	自治会（祭りや行事等）に参加
	地域	地域住民が自治会や行政区の運営に参加できる仕組みづくり
		こどもが集まれるイベントの実施
		町内の生活環境のチェックをして改善点を知る
		総ぐるみではゴミ拾いだけでなく、草刈りも行う（特に夏）
		地域全体で参加できる行事の実施
	行政	古河を好きになる人をたくさん作る（古河愛）
		自治のあり方
		市に入ってくる外国の方に対すること
		地域活動を活性化するための「資金」
行政の見える化	行政	人口統計と地域特性の見える化
		古河市の未来を真剣に考える人を作る
		縦割りの制度から重層的に関われる仕組みづくり
		ふるさと納税の活用
		課題共有のため第3期地域福祉計画進捗状況の説明
情報発信	行政	古河市も住民に頑張っていることをアピールする
		情報伝達（アプリ）
		SNS 情報発信
環境づくり	地域	子どもから高齢者まで交流ができるものを考える
		地域の人が集まれる場所を作る
		若い世代にも参加できるように考えていく必要
	行政	地域で集まれる場所の提供
		担い手不足があるため子供から高齢者が交流できる場所を作る
		空き家対策（児童館・人々の集まれる場所・老人会・子ども会で利用する
担い手育成	自分・家族	地域づくりしている人のネットワークづくり
		話し合っ家族でできる事を考えていく
	行政	ボランティアの育成
		ボランティアの担い手の育成を行う

【第4グループ】

「近所付き合い」において、近所の人を知ること、家族内の会話を増やすこと、近所の声かけの重要性を指摘しています。「地域活動」では、イベントへの参加、ボランティアへの参加・興味、民間企業との協力が提案されています。「自治会」では、自治会の活動が不足している現状を踏まえ、民生委員や老人会を盛り上げること、清掃活動の回数見直し、防災訓練の実施などが提案されています。「担い手不足解消」では、ヤングケアラー児童の見守り、福祉の専門家を増やすこと、主任児童委員の増員などが挙げられています。「拠点の整備」では、集合場所やこども食堂の会場整備、地区ごとの状況把握、商店を増やすことなどが提案されています。「広報」では、地域活動に対するPR不足を指摘し、広報活動の強化、新たな事業についてのPR、行政からのアピール強化が求められています。



タイトル	実施主体	主な意見
近所付き合い	自分・家族	隣近所の人を知る
		日常の会話の中で気になったことを必要に応じて市に伝える
		家族内の会話を増やす
		近所の声かけ
地域活動	自分・家族	日頃から近所付き合い、挨拶、ちょっとした話をする ことも支え合う関係づくり
		小さい近所の集まりが見受けられる
		地域との協力が大切
		イベントに参加する
自治会	行政	ボランティアへの参加・興味を持つ
		民間企業に協力してもらう
		ボランティア活動の支援（予算など）
		子どもが少なくなっているので、子ども会を盛り上げる
自治会	地域	自治会の活動が不足している
		子ども会だけでなく老人会も盛り上げる
		民生委員をやった方がいたが、自治会長の推薦がないために、なれない方がいた
		清掃活動が年4回から2回に減っている
担い手不足解消	行政	防災訓練を行政区で年1回実施。交流の場をつくる。行政と行政区
		ヤングケアラー児童の見守り
		魅力ある活動を増やす（例 民生委員のバス研修）
		福祉の専門家を増やす
拠点の整備	地域	ヤングケアラー児童のサポート 委員の組織づくり
		より活動しやすくするため主任児童委員の増員の検討
		集合場所を整備する
		こども食堂をもっと開催できるよう会場の整備を進める

広報	行政	地区ごとの状況を詳しく調べる、策を練る
		商店を増やす
		ぐるりん号を増やす
	地域	地域活動に対して PR が少ない
		民生委員の間で情報を共有する
	行政	広報活動（紙・ネット・TV・ラジオなど）
		新たな事業について PR して自治会会員に広める
		行政がもっとアピールを行う

参考資料 参加団体等の一覧

No.	団 体 等	備 考
1	社会福祉法人古河市社会福祉協議会	生活困窮者自立支援ご担当者
2		ヤングケアラー支援ご担当者
3		地域づくりご担当者
4	古河市民生委員児童委員第1地区協議会	
5	古河市民生委員児童委員第2地区協議会	
6	古河市民生委員児童委員第3地区協議会	
7	古河市民生委員児童委員第4地区協議会	
8	古河市民生委員児童委員第5地区協議会	
9	古河市ボランティア協会	
10		
11	古河市地域包括支援センター総和	
12	古河市地域包括支援センター三和	
13	古河市基幹相談支援センター	
14	さんぽ相談室	古河市参加支援事業 実施事業所
15	古河子ども食堂ネットワークの会	
16		
17	古河市役所	福祉部社会福祉課
18		福祉部障がい福祉課
19		福祉部こども政策課

【事務局】

- ・古河市役所 福祉部 福祉推進課
- ・株式会社ライフパシフィックデザイン 東京オフィス
(第4期古河市地域福祉計画策定支援業務 委託事業者)

参考資料 ワークショップの進め方

☆具体的な進め方

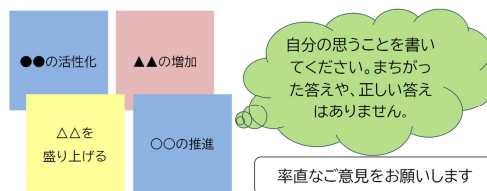
- (1) 付箋紙に自分が思うことを書いてください。
(1枚に1つのことだけ記入)

ご自身やご家族で行うことは黄色の付箋紙に記入

地域で行うことは桃色の付箋紙に記入

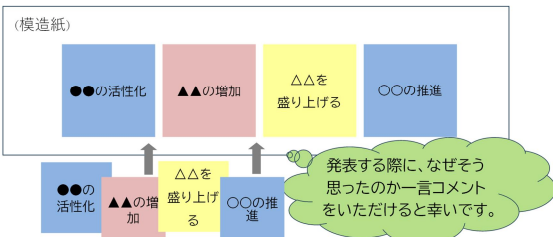
市などの行政が行うことは青色の付箋紙に記入

- (2) 時間になるまで、できるだけたくさんのことを書いてください。

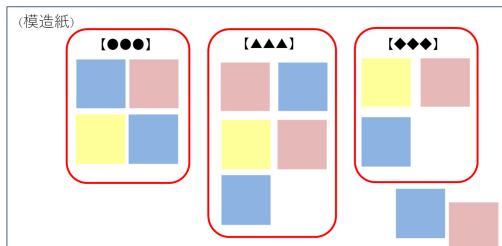


- (3) 記入した付箋紙は自分の手元に置いてください。

- (4) 時間になったら、一人ずつ順番に、付箋紙に自分が書いた内容を、声を出して発表し、テーブルの模造紙に貼ってください。



- (5) 全員の発表が終わったら、同じような意見が書かれている付箋紙を寄せて、グループになったものにタイトルをつけましょう。



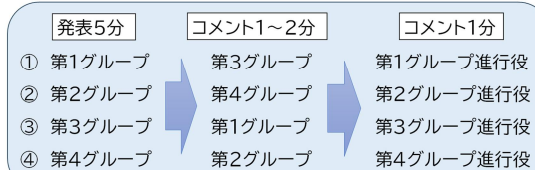
- (6) グループの中から1人発表者を決めて、グループで出された意見を発表してください。

【発表例】

テーマ1で私たちのグループで出された意見は、「●●の活性化」や「▲▲の増加」などの「●●●」に関する意見や「△△を盛り上げる」や「○○の推進」などの「▲▲▲」に関する意見、「■■■なこと」や「□□すること」などの「◆◆◆」に関する意見が出されました。他にも「×××」や「◆◆なこと」などの意見もありました。以上で私たちのグループの発表を終わります。

発表するグループの皆さんは
その場でご起立いただき、
発表をお願いします。

- (7) 最初のグループ発表が終了したら、別のグループから発表内容についての感想を述べていただきます。その後、最初のグループの進行役がコメントを述べます。以下の手順で進めていきます。



- (8) 最後に事務局が全体を通してのコメントを述べます。